

3 平成29年度活動実績

(1) リクルート等の実績

1) リクルート開始後の対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯 (表1)

福島ユニットセンターは、平成23年1月31日から福島市、南相馬市及び双葉郡の10市町村を対象地域として、産科医療機関を受診した妊婦とその配偶者を対象にリクルート(参加登録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により、相双地域を中心に福島県民の住環境は一変した。南相馬市の一部地域及び双葉郡は立入禁止区域となり住民は各地に避難し、リクルートを中断した。その後、対象地域は県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村が対象地域となりリクルートを行った。

平成26年3月31日をもって3年間のリクルートは終了した。父親のリクルートと子どもの登録は、母親が出産し1カ月健診終了の同年12月まで実施した。

表1 福島ユニットセンターでの実施概要

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート目標人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月～26年3月(3年2カ月)	平成24年10月～26年3月(1年半)

2) 母親、父親及び子どもの参加者数

平成28年度中に、参加者登録状況についてデータクリーニング及び確認作業を行った結果、母親のリクルート数のはのべ13,131人、父親のリクルート数は8,694人、子どもの出生数は12,867人となった。

子どもの参加者年齢は、平成30年3月31日現在で3歳4か月～6歳8か月であり、3歳までのエコチル調査は終了した。

(2) 全体調査実施状況

1) 質問票調査実施状況

出産後6か月以降の質問票は、参加者の誕生月前後とその6か月後の年2回、半年ごとにコアセンターから参加者宅へ発送され、記入後ユニットセンターへ返送される。ユニットセンターでは回収後質問票の入力・データクリーニング作業を行う。

平成29年度は、2.5歳児から6歳児までの計8種類、総計26,450部の質問票を発送した。3歳児質問票は平成29年11月に全ての発送を終了し、新たに6歳児質問票が同年6月から発送を開始した。(表2)

表2 平成29年度 質問票調査発送数

質問票種類	1.5歳	2歳	2.5歳	3歳	3.5歳	4歳	4.5歳	5歳	5.5歳	6歳
福島本部事務所	0	0	27	902	1,846	2,045	1,880	1,543	1,326	968
郡山事務所	0	0	98	2,118	4,232	6,137	2,634	471	62	51
計	0	0	125	3,020	6,078	8,182	4,514	2,114	1,398	1,019

平成30年3月31日現在の質問票回収率(表3)は、6か月質問票(発送後6か月後)96.9%であったが、年齢が上がるにつれ徐々に低下している。全国15ユニットセンターの平均と比較すると回収率はこれまで数ポイント高い状況で推移してきたが、一時的に低くなる状況も見られるようになった。現在、質問票が発送後5週間以上返送されない場合、返送を促す等回収率の維持に努めているが、引き続き重要な課題である。

表3 質問票調査実施状況(平成30年3月31日現在)

質問票種類	質問票発送数	回収数	回収率(%)	
			福島	全国平均
6か月	12,832	12,440	96.9	94.1
1歳	12,737	11,986	94.1	91.3
1.5歳	12,692	11,555	91.0	89.2
2歳	12,655	11,099	87.7	87.2
2.5歳	12,632	10,740	85.0	85.5
3歳	12,607	10,396	82.6	83.9
3.5歳	12,446	9,450	79.7	81.4
4歳	9,531	6,909	78.7	80.1
4.5歳	6,368	4,935	77.5	78.4
5歳	3,195	2,428	76.5	76.1
5.5歳	1,776	1,349	77.5	77.2
6歳	1,019	774	76.0	76.3

2) データの固定化に向けたデータクリーニング作業

生後6か月から1歳までの質問票調査のデータ固定化作業を実施した。

3) 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、生後、子どもが特定の疾患に罹患した場合、保護者の質問票の記載内容に基づき、専門的な内容について診療した医療機関へ二次調査票の記入を依頼するもの

である。

対象疾患は、川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がんである。

参加者が診断治療を受けた県内外医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

4) フォローアップ状況

調査参加者が、福島ユニットセンターから他ユニットセンター対象地域に転出する場合又は他ユニットセンターから福島県内へ転入した場合は、管轄を変更して調査を継続して実施している。また、対象地域外へ転出された場合は、質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続している。協力取りやめなどの意思が明らかでない状態で住所のあて先が不明になり、電話連絡が取れなくなった調査参加者へは、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し状況を把握し連絡を試みている。

母親の妊娠中の流産、中絶、子宮内胎児死亡、出産後の子どもの死亡等により調査継続が不可能になった場合を「調査打ち切り」、子どもは追跡可能な状況であるが代諾者(主に母親)の都合により調査継続ができなくなった場合を「調査取りやめ」としている。

平成29年度の子どもの調査取りやめ件数は 45件で理由は多忙、質問の回答が負担、子ども・母親の健康状態、家事都合などであった。

5) フォローアップ率維持のための対応

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、また、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「13年間エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニューズレターの発行などを実施している。

((7) 広報活動参照)

(3) 詳細調査

詳細調査は、平成26年10月から参加者募集(リクルート)を行い、平成28年6月に目標数の637名に達しリクルートを終了した。

詳細調査のうち1.5歳児を対象とした訪問調査を平成26年度から実施し、平成28年度に全員の調査を終了するとともに、同年度から3歳児を対象とした訪問調査を実施した。

また、2歳児を対象とした精神神経発達検査及び医学的検査を平成27年度から実施し、平成28年度に終了した。(精神神経発達検査617件、医学的検査614件)

1) 訪問調査の実施

平成28年6月から3歳訪問調査を実施した。

平成28年6月～平成29年3月 372件

平成29年4月～平成29年12月 204件 計576件実施(完了)

2) 精神神経発達検査(新版K式発達検査)及び医学的検査の実施

平成29年4月から4歳精神神経発達検査、同年5月から医学的検査を実施した。

精神神経発達検査 訓練を受けた検査者の面談による検査を実施

医学的検査 身体計測のほか、医師による診察や血液検査を実施

① 協力病院・施設

詳細調査の精神神経発達検査及び医学的検査を実施するため、協力医療機関・施設(表4)に協力を得て実施した。精神神経発達検査の検査会場として場所のみを借用する医療機関においては、ユニットセンターの職員が出向いて検査を実施した。

表4 詳細調査協力医療機関・施設

	協力医療機関・施設	医学的検査	精神神経発達検査
1	公立藤田総合病院	○	検査会場借用
2	大原総合病院	○	
3	福島県立医科大学附属病院	○	○
4	公立相馬総合病院	○	検査会場借用
5	星総合病院	○	○*
6	太田西ノ内病院	○	○
7	白河厚生総合病院-	○	検査会場借用
8	竹田総合病院	○	○
9	福島県立南会津病院	○	検査会場借用
10	いわき市立総合磐城共立病院	○	検査会場借用
11	第二子どもの家		○
12	子どもの家保育園		○

※ 検査者の都合で平成29年10月～平成30年1月にかけ場所のみ借用した。

<各協力医療機関・施設訪問>

平成30年2月から各協力医療機関・施設を訪問し、4歳精神神経発達検査及び医学的検査協力へのお礼を述べるとともに進捗状況を報告した。また、現行の問題や課題について相談するとともに、福島ユニットセンターに対する要望等を聞いた。併せて平成30年度の検査体制についての変更点を確認し、引き続き検査への協力を依頼した。

② 4歳精神神経発達検査及び医学的検査実施件数

精神神経発達検査 平成29年4月～平成30年3月 340件実施

医学的検査 平成29年5月～平成30年3月 302件実施

3) 詳細調査関連会議等

① 検査担当者の情報交換会

平成29年4月 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市)

平成29年10月 医学的検査担当看護師間情報交換会(郡山市)

平成29年12月 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市)

② 新版K式発達検査リーダー・検査者会合

平成29年6月 発達検査リーダー会合(Web)

平成29年8月 発達検査リーダー会合(Web)

平成29年11月 発達検査リーダー会合(東京)

③ 詳細調査担当リサーチコーディネーター(RC)会議

平成29年4月～平成30年3月 計12回

④ 精神神経発達検査定例会

平成29年5月～平成30年3月 計10回

出席者：医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学心理士、
福島県立医科大学小児科医、RC

4) 研修会・講習会・認定試験

平成29年6月 新版K式発達検査(初級)講習会(京都市)受講者1名

平成29年9月 4歳新版K式発達検査ビデオ試験(郡山市)受講者1名

平成29年9～10月 4歳新版K式発達検査認定試験 実技(東京都)受講者2名

5) 4歳精神神経発達検査ボランティア児研修

平成29年8月～9月 (福島市、いわき市) ボランティア児15名

ボランティア児募集にあたり、いわき市は詳細調査協力施設に協力を求め、福島市は福島ユニットセンターの職員や友人知人に協力依頼した。

(4)地域運営協議会開催

1)開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政機関及び医療機関等の委員に対し調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、情報交流の推進を図った。

2)開催状況

平成29年度も、県及び地域の運営協議会を計5回開催した。(表5)

表5 地域運営協議会の開催状況

	協議会名称	開催日	開催地
1	福島県地域運営協議会	平成29年7月24日(月)	福島市
2	県北・相双地域運営協議会	平成29年10月2日(月)	福島市
3	県中・県南地域運営協議会	平成29年10月16日(月)	郡山市
4	会津地域運営協議会	平成29年11月13日(月)	会津若松市
5	いわき地域運営協議会	平成29年11月24日(金)	いわき市

3)内容

環境省・コアセンターから全国のエコチル調査の現状と調査にかかる情報やご意見をいただいた。本県のエコチル調査の活動状況、環境省からの年次評価、質問票集計中間結果等について報告した。参加者に13年間調査を継続してもらうための方策や調査に期待することや要望等について、委員から様々なご意見をいただくとともに、今後のご支援・ご協力を依頼した。



福島県地域運営協議会(平成29年7月24日：福島市)

(5)市町村訪問

平成29年6月に、毎年実施している市町村訪問を行った。

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

(6)医療機関訪問

疾患情報登録調査を依頼する医療機関を訪問し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正により、医療機関に疾患情報提供記録を保管していただくよう説明を行った。

また、平成29年度より開始した詳細調査について、小児科のある二次医療機関の協力を得て、4歳時医学的検査・精神神経発達検査を実施した。

(7)教育関連機関訪問

平成29年5月から6月にかけて、平成28年度から実施している教育関連機関を訪問した。

訪問先は、平成29年度福島県教職員の人事異動により、福島県地域運営協議会委員の委嘱替えとなる福島県教育事務所長及び福島県小学校長会の役員の方々とした。

訪問先においては、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めるとともに、福島県地域運営協議会委員への就任を依頼し、承諾をいただいた。

(8) 広報活動

1) 子育て講演会&ファミリーコンサートの実施

開催日：平成29年8月27日(日)

開催地：郡山市

会場：郡山女子大学建学記念講堂

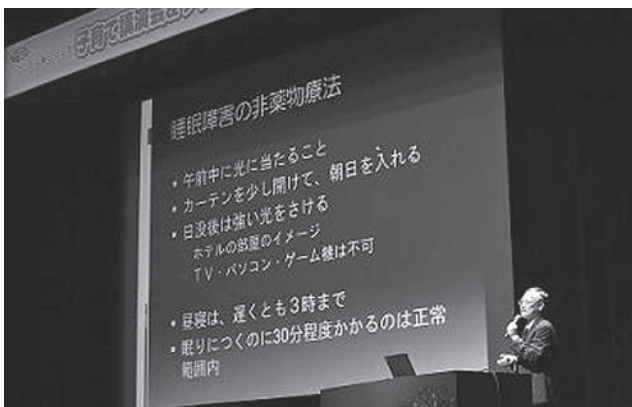
参加者数：403名

福島ユニットセンターに属する参加者へのフォローアップ率維持及び県民に対するエコチル調査の認知度向上及び協力体制の構築を目的としたイベントを開催した。調査参加者をはじめ、全県域の関係機関、公共施設等に対しチラシを配布するなどの広報を実施した。また、フリーペーパーに広告を掲載、地元新聞社にはイベントの開催をお知らせした。

エコチル参加者の関心が高い子育てに関するテーマの講演会と親子で楽しめるファミリーコンサートの2部構成とした。第1部においては、事前申込制による託児室を併設し、福島県立医科大学の横山浩之教授による講演や、当ユニットセンター長による調査の進捗状況や集計結果の報告を行い、第2部では、歌うテーマパークチーミーによる参加型コンサートを行った。

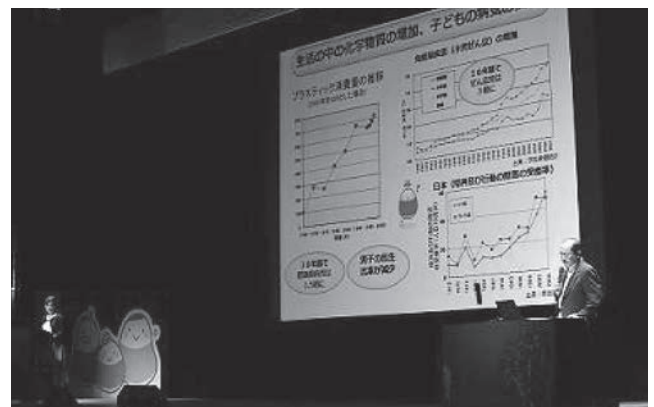
会場内に、調査の最新データなどのパネルを掲示するとともに、子育てや医療に関する相談コーナーを設置した。

The poster is for an event titled "Eco Child Fukushima Child Rearing Lecture & Family Concert". It features a large title in Japanese and English. Key information includes the date "August 27, 2017" (2017年8月27日) from 14:00 to 16:00 (opening at 13:30) at the "Fukushima Women's University Building Memorial Lecture Hall" (郡山女子大学建学記念講堂 小ホール). The program consists of two parts: a lecture by Professor Hiroshi Yokoyama (横山浩之先生) on "What we learned from the Eco Child Survey" and a family concert by "Singing Theme Park Cheemee" (歌うテーマパークチーミー). The poster also mentions a "500" (500名) participation goal and provides contact information for the Eco Child Fukushima Unit Center (TEL: 024-983-4750).



福島県立医科大学 横山浩之教授
子育て講演会

演題：「小学校に入るまでにできてほしいこと」



福島ユニットセンター長 橋本浩一

報告：「エコチル調査でわかったこと」



ファミリーコンサート
 「チーミーのウキウキッズライブ」
 調査参加者の対象児(3～6歳児)と親子で楽しめる参加型コンサート
 創造性を育む仕掛けや、歌やダンスのパフォーマンスで会場を盛り上げた



託児室の開設(事前申込制)



エコチル調査の概要や集計データのパネル掲示

子育てや医療に関する相談コーナー



お子様連れの家族がゆったりと講演会に参加できる環境を整備するため、ロビーにモニターを設置した

**子育て講演
ファミリーコン**
福島県立医科大学エ
コチル調査福島ユニ
ットセンターは八月
二十七日午後二時か
ら、郡山女子大建
学記念講堂で「子育
て講演会ファミリー
コンサート」を開催
する。

日本小児科学会専門
医で福島県立医大ふ
くしま子ども・女性
医療支援センター教
授の横山浩氏を講
師に「小学校に入る
までにできてほしい
こと」をテーマに聴
講する。

日刊マメタイムス 7月19日掲載

来月27日 子育て講演&演奏会
福島医大エコチル調査福
島ユニットセンター(エコ
チルふくしま)「子育て
講演会&ファミリーコンサ
ート」は八月二十七日午後
二時から、郡山の郡山女
子大建学記念講堂が開かれ
る。参加申し込みを受け付
けている。

第一部の講演会は、福
島医大ふくしま子ども・女
性医療支援センターの横山
浩之教授が「小学校に入る
までにできてほしいこと」
をテーマに話す。第二部の
コンサートは、「会いにい
ける歌のお兄さん」として
活躍しているチームさん
が登場する。

入場無料。定員五百人。
参加希望者はエコチルふく
しまのホームページから申
し込む。応募多数の場合は
抽選となる。問い合わせは
同センター郡山事務所。電
話024(983)475
0へ。

エコチル調査福島ユニ
ットセンターの横山公彦副セ
ンター長・郡山事務所長
宗形光章郡山事務所事務
長は、イベントPRのため福
島民報社を訪れた。

福島民報 7月26日掲載

**子育て講演会来て
郡山で来月27日**
エコチル調査福島ユニ
ットセンターと福島医大は8
月27日午後2時から、郡山
市の郡山女子大建学記念講
堂で子育て講演会&ファミ
リーコンサートを開く。写
真。

本県の約1万3千人を含
む全国約10万人の子どもを
出生後継続的に調査してい
る環境省の大規模プロジェクト「エコチル調査」の一
環。調査参加者だけでなく
誰でも入場できる。

調査対象の子どもの一部
が来年度小学校に進学する
ことから、講演会では福島
医大ふくしま子ども・女性
医療支援センターの横山浩
之教授が「小学校に入るま
までにできてほしいこと」と
題して講演する。コンサ
ートでは全国各地のコンサ
ートで活躍中の「チーム
さん」が出演する。

入場無料、託児あり。申
し込み締め切りは8月3
日。問い合わせはエコチル
調査福島ユニットセンター
郡山事務所(電話024・
983・4750)へ。

福島ユニットセンターの
横山公彦副センター長・郡
山事務所長と宗形光章事務
局長・郡山事務所事務
長は24日、PRのため福島民
友新聞社を訪れた。

福島民友 7月27日掲載

エコチル調査知って
郡山周知へ講演、コンサート

エコチルふくしま子育て
講演会&ファミリーコンサ
ートは27日、郡山市の郡山
女子大建学記念講堂で開か
れ、出席者がエコチル調査
の現状を学んだ。

エコチル調査福島ユニ
ットセンターの主催。環境中
の化学物質などが子どもに
成長や発達にどのような影
響を与えるかを調べる環境
省の全国調査「エコチル調
査」の周知を図ることを目
的に開かれた。

2部構成で行われ、1部
では同センターの橋本浩一
センター長が、エコチル調
査の本県の参加状況などを
報告。「エコチル調査は全
世界に注目され、高く評価
されている」とし「環境に
よって起こる病気を予防す
るための政策をつくるな
ど、子どもが健やかに成長
するための環境整備に役立
てられる」などと話した。

2部では「コンサートが開か
れた。

エコチル調査の現状を
伝える橋本センター長

福島民友 8月29日掲載

2) エコチルふれあい会の実施

ふれあい会は、エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとがコミュニケーションを持ち、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくモチベーションを高めることを目的として、これまで子どもの成長発達段階で重要といわれている時期に合わせて県内全域で平成24年度から実施している。

平成29年度は、保護者を対象としたふれあい会を新たに企画し開催した。

また、ふれあい会の参加者に対し、エコチル調査の質問票で分かったことについて、資料を配付して説明した。(資料1参照)

ふれあい会の対象と内容は表6のとおりである。

表6 ふれあい会の対象と内容

対象	ふれあい会の内容
3歳児	①親子ダンス(3B体操、キッズダンス) ②小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談
4-6歳児	①親子リトミック ②小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談
保護者	①子育てに関する参加型ワークショップ ②笑いヨガ ③子育て相談 ④茶話会(保護者同士のふれあい・スタッフとのふれあい・相談など)

ふれあい会の実施回数は20回、参加親子組数は計247組であった。(表7)

表7 ふれあい会開催状況

対象児	平成24-28年度(5年間)		平成29年度		計	
	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
6か月児	40	806	-	-	40	806
1.5歳児	33	582	-	-	33	582
3歳児	21	240	6	85	27	325
4-6歳児	2	17	5	93	7	110
親子対象	5	81			5	81
保護者対象	-	-	9	69	9	69

3) ニュースレターの発行

2017年夏号(平成29年7月)及び2017年秋号(平成29年9月)、2017年冬号(平成29年12月)、2018年春号(平成30年3月)の4回発行した。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、「おしえて先生」などの子育てに役立つ情報を提供した。(参加者あて約12,000部、市町村等関係機関あて約750部、計12,750部発送)(資料3参照)

4) 協力医療機関及び施設への活動報告

精神神経発達検査及び医学的検査の12協力医療機関・施設に対して「エコチル★詳細調査★だより」を毎月発行した。詳細調査の進捗状況、取り止め数、未実施(欠測)数、精神神経発達検査及び医学的検査月別検査予定数、参加者への結果報告書の送付数などについて報告した。(第22号～第33号まで発行)



エコチル★詳細調査★だより

第 32 号

2018.2

4歳精神神経発達検査及び医学的検査 (2018年1月末現在)

地区別実施件数

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
発達検査	103	85	13	27	3	10	40	2	283
医学的検査	86	75	11	24	3	10	32	2	243

※ 参加者の転居に伴い実施地区の数字が増減することもあります。
 ※ 県外に転居した場合は、福島県内の詳細調査協力病院・施設まで来ていただき検査を実施します。

実施割合

	総数	実施件数	残数	実施割合
発達検査	616*	282	334	45.8%
医学的検査	616*	243	373	39.4%

※ 1月末現在の4歳発達検査・医学的検査の総数は、取り止め等の理由により616名となりました。

地区別未実施(欠測)数

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
発達検査	6	12	1	3	1	-	-	1	24
医学的検査	15	12	1	2	1	-	3	1	35

取り止め数 (2018年1月末現在)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
取り止め	5	4	3	4	-	1	3	20

他ユニットへの転出数 (2018年1月末現在)

抽出時期	転出数	地区	転出先
第2次抽出	1	県北	宮城 UC
計	1		

参加者への結果報告書の返却数 (2018年1月末現在)

3歳環境測定結果は、タニアルゲンタータが揃った段階で結果報告することになりました。

返却日	3歳環境測定	4歳発達検査	4歳医学的検査
2017年7月～2018年1月	565	135	29*

※ 医学的検査結果は、諸事情により参加者への返却が遅れています。

4歳精神神経発達検査及び医学的検査 月別検査予定数 (実施数含む)

参加者が4歳になる誕生月を、地区別にした表です。
 精神神経発達検査及び医学的検査は、日程調整上、誕生月より遅れて検査する児が多くなっていますので、よろしくお願いたします。

参加者の誕生月	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
H29年11月	6	10	3	1	-	2	7	29
12月	8	14	3	3	-	-	7	35
H30年1月	10	6	2	4	-	-	4	26
2月	11	13	4	2	1	-	4	35
3月	15	10	3	5	-	-	9	42
4月	8	10	2	1	1	1	7	30

お知らせ

★ 協力医療機関等訪問について
 今年度も詳細調査にご協力を頂いている医療機関等の訪問を計画しています。

訪問目的 ①詳細調査の進捗状況報告
 ②発達検査及び医学的検査に関する意見交換
 ③福島ユニットセンターへの要望等

訪問時期 3月中旬～3月下旬に予定しています。
 なお、訪問日については、後日各医療機関などの窓口担当者に相談させていただきますので、よろしくお願いたします。

看護師さんに「ありがとう！」

「ヤダ！」
 某病院でのある日のこと
 「チェック嫌だ」と言いながら参加児が入室。泣き出し診察にならず退室。
 採血も嫌がり入室できずにいると、看護師が参加児に歩み寄り、「赤ちゃんに使う注射でやるから大丈夫だよ」と優しく話しかけました。

「赤ちゃんに使う注射だよ」
 すると、参加児の表情が和らぎ、お母さんに抱っこされて入室。
 参加児の好きなアンパンマンのDVDを見ている間に採血終了。
 看護師の「もう終わだよ」の声に、参加児は嬉しい表情を見せた。

【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査 福島ユニットセンター
 (福島本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1番地
 TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
 (郡山事務所) 〒963-8024
 郡山市朝日3丁目6-4 レジデンス朝日第2ビル2階
 TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

エコチル★詳細調査★だより 第32号(平成30年2月発行)

5) メールマガジンの配信

エコチル調査のデータ集計結果、論文紹介など、調査の取組状況を広報する学内の教職員及び学生向けのメールマガジン『情報発信：エコチル調査』を毎月配信した。

6)市町村主催のイベントへの参加

エコチル調査の周知及び調査への理解を促すことを目的として、市町村で主催するイベントのブースに出展し、活動内容や調査でわかったことなどについての広報活動を行った。(表8)

表8 市町村主催イベントへの参加状況

主催市町村名	イベント名	参加日
郡山市	こどもまつり	平成29年5月5日(金)
会津若松市	健康まつり	平成29年9月17日(日)
福島市	健康フェスタ	平成29年9月24日(日)
郡山市	ファミリーフェスタ	平成29年11月5日(日)



こどもまつり



健康まつり



健康フェスタ



ファミリーフェスタ

7)グッズの作成等

調査に継続参加いただくことを主たる目的として全調査参加者にオリジナルカレンダーを、3歳児にはハンドタオルを、また、平成30年度に初めてエコチルキッズが小学校に入学することとなり、新入児童に対し入学祝としてエコチルの名入り鉛筆を贈呈した。

また、ふれあい会等のイベントにおいては、ティッシュやボールペン等を配布し広報に努めた。

(9)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

2)適用範囲・対象者

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみ父親及び銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を回収した母親又は父親について、12,132名(平成30年3月末現在)に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

電子マネーカード



(10)その他研修等

1)RC代行研修

平成29年度は、ユニットセンター職員等9人に対して入職時に5回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンターの職員等に対する研修は、計60回、受講者は計648名となった。

2)他ユニットセンターとの情報交換会

甲信、高知、宮城及び大阪の各ユニットセンターを訪問し、情報交換を行った。(表9)

表9 他ユニットセンターとの情報交換会

訪問先	訪問日	訪問職員	情報交換の内容
甲 信	平成29年6月25日(日)	RC職員3名	・ファミリーイベントへの参加 ・情報交換会
高 知	平成30年2月13日(火) ～平成30年2月14日(水)	教員1名 RC職員1名 (臨床発達心理士) 事務職員1名	・地域運営協議会への参加 ・フォローアップ活動に係わる情報交換
宮 城	平成30年2月22日(木)	RC職員4名 事務職員3名	・管轄変更及び疾患情報登録に係わる情報交換 ・フォローアップ活動に係わる情報交換
大 阪	平成30年3月2日(金) ～平成30年3月3日(土)	教員1名 RC職員3名	・詳細調査実施状況及び学童期検査準備状況等に係る情報交換 ・4歳詳細調査(集団形式)実施の見学

3)職員研修

全職員を対象に次の研修を実施した。

① 平成29年4月、10月

男女共同参画の推進

② 平成29年7月

全体調査及び詳細調査の状況、個人情報管理、リスク管理

教養講座「接遇」(ふくしま自治研修センター 国分敏明先生)

③ 平成30年2月

全体調査及び詳細調査の状況、個人情報管理、リスク管理、サイバーセキュリティ

教養講座「エコチル調査における環境の曝露評価」(国立環境研究所 田村憲治先生)

4) 他主催研修への参加

コアセンター主催のエコチル調査スタッフ研修(平成29年9月)に積極的に参加した。

(11) 学術研究

1) エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ

学術的情報発信を大学一体となって推進するため、平成27年4月6日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ」を設置した。

平成29年度は、「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議」を平成29年10月26日及び平成30年3月8日の2回開催した。

学内の研究者に対し、エコチル調査の概要・追加調査の現状・データの学術利用等について説明を行い、周知を図った。

2) 中心仮説解析計画検討ワークショップ

エコチル調査における中心仮説に関する成果発表に関して検討を進めるために、コアセンター(国立環境研究所)主催で「中心仮説解析計画検討ワークショップ」が平成29年10月13日及び平成30年3月9日の2回開催された。

当ユニットセンターでは、7名の教員が積極的に参加し、中心仮説に関する研究計画について討論した。

3) 学会発表・論文執筆

① 学会発表

- ・平成29年4月14日～16日 第120回日本小児科学会学術集会

小児疫学研究における2才児の静脈採血について(福島県でのエコチル調査から), 橋本浩一 他

(追加調査)

- ・平成29年10月5日～7日 第58回日本児童青年精神医学会総会

福島市における東日本大震災後の子どもの精神状態と発達障害との関連について-エコチル追加調査-, 板垣俊太郎 他

- ・平成29年10月21日～22日 第49回日本小児感染症学会総会・学術集会

ヒトパレコウイルス3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連, 清水裕美 他

・平成30年2月1日～3日 第28回日本疫学会学術総会

ヒトパレコウイルス3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連,
清水裕美 他

②論文執筆(資料2参照)

・「The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture
- A progress report on the enrollment stage」

橋本浩一, Fukushima Journal of Medical Science, vol.63, No.2, 2017

・「福島県における『子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)』追跡期間の
課題と取り組み」 佐藤晶子, 福島県保健衛生雑誌, vol.31, P25-31, 2018